

ワークの活用術

皆さんは、購入したワーク(学校のワークや塾のワーク)を1周して終わりだと思いませんか？

ワークは、最低3周すると、学習効果が飛躍的に向上します。

できていない人は、是非この文章を読んで取り組んでみてください。

まず、3週のメリットは！

- ① ワークの問題が定期考査や小テストに出やすい！
- ② 「考査の得点」も「内申点」も上がる

小テストや定期考査では、学校の授業内で触れた内容やワーク内で実施した問題から類題を作成する場合があります。

つまり、ワーク内の問題の理解力が上がれば、得点を上げることができます。

また、内申点は考査・小テストから決まります。

テスト・考査の結果が伸びれば伸びるほど、評価が伸びる仕組みになっています。

メリットを聞いてこう思ったのではないのでしょうか？

「メリットがわかってやり方がわからない」「現実的に不可能でしょ！！」

「3周やる時間がない」などなど

ここからは、現実的に3周終わらせる前提と方法をまとめていきます。

是非、実践してみてください。

前提1_1 ページごとの丸付けをする(脳の飽きを防ぐ)

前提2_○△×の記号をルール化する

前提3_教科書・ノートを見ながらやらない(学習を作業化しない)

※○△×のルールをしっかり決めておけると学力に差が出てきます。

前提2について詳しく

記号	付け方	内容
○	自分の力だけで解けた	解き直ししなくてよい
△	解説を少し聞いて解けた	解き直し実施(3週間後再度復習する)
×	解けなかった	解き直し実施(1週間おきに実施)

前提は整理できたので、次は進め方になります。



- 1_仕分け : 問題文を読んで解ける問題には問題番号に○をつける。
やってみないとわからない問題には一旦△を付けておく。
- 2_△問題の解答 : 実際に問題を解いてみて合っていれば、○にする。
解説や解答を見て解けた場合は、△のままにする。
上記を満たさない場合は、×にする。
- 3_解き直し : △の問題を解き直す(解説の丸写しはせず、問題を再度解く)
×の問題は、先生に質問をして解き方を確認し、解いてみる。
ここまでがやり方になります。
×がまだ残ってしまう場合は、4周目へ！